

第3回北上市文化芸術推進会議報告書

日時 令和7年1月21日(火)
午後2時～4時30分
場所 北上市生涯学習センター
第1学習室

【出席者】

中川幾郎会長、役重眞喜子委員、阿部武司委員、昆野世宙委員、阿部大司委員、千葉真弓委員、高橋京佳委員
鈴木善一まちづくり部長、児玉康宏課長、中島辰也課長補佐、小泉由美子係長、和泉淳樹主任

【会議の主旨】

- (1) 令和6年度事業報告について
- (2) 令和7年度提案の採択結果報告について

【主な意見】

(1) 令和6年度事業報告（9月～12月実施分）について

①小中学生向け美術ワークショップ

- ▶特徴的な絵を描く方で、この方のワークショップは良い経験になったのでは。美術館まつりは駐車場へのお絵描きなど、おもしろい体験がほかにもある。そうしたものをこの報告に載せてもよい。
- ▶アウトリーチをするのであれば、学童という手もある。
- ▶若い人が参加しやすく、アーティストならではの意見を聞ける子どもにとってとても良い企画だと思う。
- ▶とてもいい企画だが、興味のある方しか来ないという面もある。本当に必要な人たちに情報が届いているか、芸術分野のみにしか強みがないような人にこそ来てほしく、距離的な問題などもある。すべてを網羅することは難しいが、土曜日開催だと土曜日に働く方はずっと来られない。障害者施設などに訪問するアウトリーチで実施することもアリだと思う。参加した子どものリアルな声、参加したうえでの子どもの変化など発信できると尚よい。
- ▶美術館はインリーチだけでなく、アウトリーチしてもらいたい。コーディネーターになるような人が必要になってくる。

②若手の民俗芸能交流事業

- ▶企画として少し練られていないように感じる。もっと交流に重きをおいてもよかつが芸能が舞台芸術化し、民俗部分が薄まっていく流れがある。芸能団体自身で企画などを考える必要がある。
→一部企画は芸能団体自身の発案企画もあった。
- ▶衣装なしという企画は面白く魅力的。ただここから何が生まれるのか、単発で終わらないようにしてもらいたい。
- ▶チラシの条例掲載について、もっと大きくしてほしい。告知はどのようにしたのか、どこに何部配布した等わかるように教えてもらいたい。
- ▶芸能団体や地域の方だけでは企画に限界がある。予算があるようであればプロのコーディネーター、演出家などに依頼するのも手だったと思う。アンケートは絶対に必要なものなので、内容も精査し、回収率を上げるよう工夫してもらいたい。条例の表記をしたのはいいことだが、もう少し目立つように、わかりやすく配置してもらいたい。周囲に聞いても条例があることは伝わっていない。「8条」の内容も分からないので、その内容を載せる等工夫してもらいたかった。
- ▶チラシに表記をしたのは良いこと。小さくてもいいから掲載を継続してほしい。
- ▶企画時点で団体と意思疎通、練り込みがあったのか疑問。その過程で若手と年配層での衝突等があるかもしれないが、その過程が大事であり、そうした過程の記録を残しておくべき。チラシに条例の表記があるのは良いことだが、これが当たり前のこと。目立つように、わかりやすいように表記すべき。1年ほど前に委員の中でポツと話が出て、それを実現し、事業化したものであり、動きとしてはすばらしい。評価に値する。

③きたかみ子どもフェスタ出展

- ▶親子向けという観点が良い。ハサミ無し、ということの魅力もあるが逆にこういう場でハサミの使い方を学ぶ、というものもアリかと思う。
- ▶アンケートの内容が具体的でよい。子ども向けの企画をやる際には参考にしたい。
- ▶運営主体はどこか。
→民間や市職員、議員などが中心となっている実行委員会。
- ▶アンケートについて、こうしたイベントに来て、美術館ブースを選んで来た方のバイアスがかかっている。数年に一度ある子どもがいる家庭向けのアンケートの際にこうした内容を聞いてもらえると指標として確かなものになる。
- ▶目標参加者数が下回っているがこの理由は。美術館の認知度を高める取り組みはどのようなものだったか。
→目標参加者について、去年は鳥のモチーフに色を塗ってもらう体験としていたが、さっと塗って終わる子もおり、滞在時間が短かった。今年はじっくり取り組む子も多く、回転率が悪くなったがその分集中して取り組む姿があった。認知度を高める取り組みについて、本来10月に開催予定だったが、選挙会場として使われることとなり、イベント開催日時が12月にスライドしたことで美術館への誘導ができなかった。その代わりに次年度以降につながるアンケートを実施した。
- ▶美術館への誘導はできなかったかもしれないが、認知度は少なからず上がる。アンケートについて、母数を回答数で割り出し、より具体的に、細かい数字を出すと説得力が増す。
ex.市内で2歳の子ども700人、アンケート回答で2歳が80人、全体11%が回答

【項目以外で】

- ▶推進会議に議員さんにも参加してもらい、実情や必要性についてしっかりと理解してもらいたい。単純な疑問として、図工や音楽の時間は小中学校で減っているのか。学校でも体験できることをやっても仕方ないので、学校でやらない、できないことをやるべき。
- ▶全体として、いろいろ進んできてはいるが、道は半ばである。特に学校、教育、福祉、医療分野と連携してもらいたい。
- ▶部活動の地域移行について、スポーツ分野が優先し進められているが、文化部も進める必要がある。巷では民間スポーツクラブに一任する、というような地域もあるがそれは民営化であり腐敗であるといわざるを得ない。学校側の意思確認をする実態調査が必要である。当委員会として、教育委員会に警鐘を鳴らすないし、アピールする必要がある。
- ▶イベント等の平日開催について、保育園等施設に行ってる子には不公平であり、それをカバーするのがアウトリーチ。インリーチは休日に開催し、アウトリーチは平日にと、というように役割を分けて考えるべきで、どちらも補完的に必要である。今後の課題はアウトリーチの定例化と地域移行の促進が課題である。

(2) 令和7年度提案の採択結果報告について

①民俗芸能地域発表支援事業

- ▶均等に支援をするということは難しい。狙いがあって予算要求をしているのだから、しっかりと伝え続けてほしい。芸能団体はサポートがなければ消え行ってしまうのが見えている。発表をするだけでは難しい団体があり、何らかの支援策を考えてもらいたい。網掛けや公平にではなく、少額でもいいから活動している、困っているところへの支援が欲しい。
- ▶具体的な支援策案はあるか。
→体験会の実施し、後継者を増やすというもの。口内地区では女性や市外の人にも門扉を開き、人数を増やしているという例もある。
- ▶後継者の発掘、跡継ぎの育成はこの課の範疇を超えており、教育委員会や文化財課の役割でもある。どこがどこまでやるのか、役割を明らかにしておく必要がある。
- ▶各地区にどの程度団体があるのか、明らかにしてもらいたい。
- ▶広域支援が必要なものについて、県の役割でもあるが、なかなか動けないのが実情。

- ▶実働をするのは市町村であるが、広域的な支援は県がすべきものである。特に小規模な町村については医療のように県がサポートしなければならず、文化芸術についても同様である。せめて県内市町村の担当課がつながる担当課長会議をつくり、ネットワークを持ち、情報流通を促すといった取り組みは必須である。委員会から県に対し、答申を行うのも手である。

②北上市アートスタート事業

- ▶予算がつかなかったことは残念だが、そうした予算を獲得する方法を学んでいってもらいたい。子どもフェスタのように実行委員会が手弁当で行っているが、継続できているものもある。
- ▶10万でもつかないことは驚き。奥州市の例で、支援学校の生徒の美術作品をふるさと納税の返礼品にし、売れたというケースがあった。市外に向けたアプローチが形となって見れば予算もつきやすいのではないか。民俗芸能についても、インバウンド需要に対して、策を講じるのも手だと思う。

③市内幼稚園&保育園への文化芸術アウトリーチ事業

- ▶イベントなどでは親都合で興味のある人しかこれず、全ての子どもに届くにはアウトリーチしかなく、ぜひ継続してもらいたい。
- ▶これまで興味のなかった子供にも届く、有効なアウトリーチになると思う。ぜひ永続的に継続してもらいたい。小学生等進学後の変化なども拾えたら理想的。
- ▶民間の楽団として保育園等に演奏を市に行ったことはあるし、県の方でも楽団を派遣する、というのは聞いたことがある。そうした実態については把握しているか。
→実態については把握していないが、園長の方針等によっても参加意欲についてばらつきがある。全園をまわることでそうしたばらつきをなくし、公平にすべての子どもたちに機会を提供できる事業である。
- ▶アウトリーチはアマチュアが訪問して音楽を聞かせる、というものとは別物であり、プロのアーティストがしっかりとコミュニケーションもとったうえで成り立つものである。堺市等では研修を受けたアーティストしか行くことができないようにしてある。
- ▶コロナ前後で状況は大きく異なると思うが、各園の芸術鑑賞における実情について聞き取りを行ってもらいたい。
- ▶先進的であり、とても良い取り組みだと思う。保育施設だけでなく、地域の音楽に興味のある人等にかかわってもらうこと拡がりが見られると思う。オープンにかかわれる余地があるとなおよい。

【全体を通して】

- ▶どの事業にどの程度予算があり、どのような変化があるか7月に明示してほしい。夏油高原スキー場でインバウンド需要に対し、鬼剣舞の公演を予定している。
- ▶他市町村や他施設（ホール）と交流（連携）を深めてもらいたい。
- ▶アウトリーチは固定化するべき。その場合の相手方窓口がどこになるか、明らかにしておくべき。学校の校長会なのか、音楽教師の連合なのか、固定化するために展望を広げてほしい。
- ▶障がい者の団体に対し、アートモデルを提供できるのか、障がい福祉課と協力し、切り開いていくべき。
- ▶アウトリーチなどを主導できるアートコーディネーターを育成し、プールするべき。難しい分野であればその役割を持つのは財団である。財団の事業は収益事業と公益事業を切り分けるべきである。指定管理において管理費だけが指定管理料となっているのであれば、収支についても①広域会計②収益会計③一般管理会計に分けるべき。
- ▶次回開催時（R7.7）に計画の基本施策の進捗を具体的に可視化して示すこと。進んでいるものもあれば、未着手のものもあると思う。図示化して提示すること。